

科 目 名
地域計画設計 Regional Planning and Design

3年 後期 3単位 選択

内 丸 恵 一
秋 元 一 秀

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：2-(2), 2-(3), 2-(4), 2-(5), 3-(1), 3-(2), 3-(3), 3-(4), 4
建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準1の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
C	—	建築総合コース	選択	67.5時間
	C 1	建築計画コース	必修	
	—	建築構造コース	選択	

【概 要】

大学外の実際の地域を想定し、地域住民と関わりながら、その地域を魅力ある場所にするための計画を企画・提案し、建築や建築的装置を含んだ外部空間の設計をおこなう。さらにその成果を地域住民の前で発表する。3年前期までの設計課題では、条件を与えられてそれに対応する建築物の設計を行ったが、地域計画設計では、実際の地域の中で、場所の可能性と建築的条件をみずから見出すところから始まる。これまでの課題では学生個人による設計であったが、本科目ではグループで計画し設計する。

これらすべてのことが、社会への対応力を育て、卒業設計への重要な準備段階となる。

【到達度目標】

- (1) 学生自身による計画の立案・遂行能力の養成。
- (2) 地域社会における問題発見と提案能力の養成。
- (3) グループでの計画立案作業を通して、対話と協議によるプロジェクト推進能力の養成。
- (4) 地域での発表をおこなうことによるプレゼンテーション能力の養成。
- (5) 地域住民や学生相互の対話を通じてのコミュニケーション能力の養成。
- (6) 文献やインターネットに加え、行政機関や地域社会などの実社会からの情報収集能力の養成。

【授業計画】

テ ー マ	内 容
① 課題説明と講義	課題説明、まちづくりの事例と方法に関する講義。
② 地域を理解する	全員で対象地域を歩き、地域の概要をとらえる。
③ 地域の声を聞く	地域住民によるまちづくりの現状と問題に関する講義。
④ 個人による発表とグルーピング	学生個人で対象地域を歩き、地域の可能性と問題を探る。 対象地域の可能性と計画の方針に関する学生個人の見解の発表。
⑤ 計画の方向性を考える	発表後、学生の自由意志によるグルーピング
⑥ 基本方針の具体的なイメージ化	グループによる計画の方向性（基本方針）の提示。教員との話し合い。 基本方針を練り上げ、その方針を具体化するグループごとの基本計画（全体計画）の概要を提示する。教員との話し合い。
⑦ 中間発表会・1	基本方針と計画概要の発表。教員と履修学生全員による協議。
⑧ 基本計画の提示	グループによる基本計画の図面化。教員との話し合い。
⑨ 基本計画の練り上げ	図面化した基本計画を練り上げる。教員との話し合い。
⑩ 中間発表会・2	図面化した基本計画の発表。教員と履修学生全員による協議。
⑪ 基本計画の改良と個別計画の方針	基本計画の改良案と、学生個人の担当部分の計画方針の提示。
⑫ 個別計画の図面化	各グループの基本計画に基づいた、個人担当部分の設計。
⑬ 個別計画の練り上げ	個人担当部分の設計図面の練り上げ。教員との話し合い。
⑭ プレゼンテーション図面の作成	基本方針、基本計画、個別部分の設計などの発表図面の作成。
⑮ 学内発表会	大学内での発表と講評会。
⑯ 学外発表会	学外の地域住民に向けての発表会。

【授業方法】

学生自身による調査と計画案の策定。それをもとに教員と学生のディスカッションを行い、数回の発表会を行う。

【学習到達度の評価】

- 1) 頻繁におこなう学生と教員との個別の協議から、各学生は学習達成度を理解する。
- 2) 数回おこなう発表会において、複数の教員の評価を学生に伝える。
- 3) 地域での発表会から、地域住民の評価を参考にする。

【評価方法】

- 1) 最終的な計画提案の内容、発表会でのプレゼンテーション、課題を通じての学生の伸び、これらを含めて総合的に評価する。
- 2) 全授業終了後に、学生自身による自己評価を行う。

【関連科目】

3年：地域・都市計画、建築設計Ⅱ、建築造形実習

【参 考 書】

学生の提案内容に応じて個別に教示する。

【履修上の注意】

学生と教員との個別の協議と発表会には絶対に欠席しないことが前提である。この科目では、学生自身が意欲的かつ積極的に取り組むことが、特に求められる。

【オフィスアワー】

3コマある講義の間の昼休みに、研究室にて内容に関する質問を受け付ける。